



京都大学グリークラブ創設 50 周年記念事業

Jubilee Concert

April 25, 2015

Kyoto Concert Hall

主催・演奏 京都大学グリークラブ OB 会・京都大学グリークラブ
特別協賛 株式会社メディカル・プリンシプル社

WELCOME



中村 明

京都大学グリークラブOB会会長
京都大学グリークラブ初代幹事長

京都大学グリークラブ 50 周年記念事業として、OB 演奏会を開催する運びとなりました。本日はようこそお運びくださいました。心より御礼申し上げます。

50 年前、大学生であった私たちがグリークラブを創設して、もう 50 年も経ったかと思うと、本当に感無量です。

当時は学生運動が激しい時代でした。それまで所属していた合唱団も議論ばかりで、かなり政治的色彩が強かったので、純粋な音楽の追求と、京大の学生らしいクラブ活動の充実を求めて、わずか 28 人で脱退し、新たにグリークラブを創設したのが、まるで昨日の出来事の様気がします。

無料で貸してくれる練習場を探し、皆でカンパして中古のピアノを買い、ステージプレザーを大学生協と交渉して安く作ってもらったり、資金集めを兼ねた琵琶湖一周の高校訪問・・・絶対に成功させようと、それこそ死ぬ気になって活動したことが、今となっては懐かしい思い出であり、貴重な人生経験となりました。

そのクラブが、半世紀も続くとは・・・。何度かのピンチを乗り越えて 50 周年を迎える今日、しみじみとした喜びと、一方で大きな誇りを感じる次第です。

そして、OB の数も増え、今では OB 会も 500 名を超えました。これもひとえに、京都大学をはじめ関係各位の暖かいご支援の賜物と心から御礼申し上げます。

本日の出演メンバーは、現役も入っていますが大半が OB です。練習時間や年齢のハンディキャップ(?) を克服して、半世紀にわたる想いと感激を、皆様の心にお伝えできれば幸いです。

CONGRATULATIONS



山極 壽一

京都大学総長

京都大学グリークラブが創設 50 周年を迎えたことを、心よりお祝い申し上げます。グリークラブは 17 世紀にイギリスで生まれた無伴奏の男声合唱団と伺っております。人間以外の霊長類にもオスに太く音量のある声を出す能力が発達しており、オスの間で美しい鳴きかわしが聞かれることがあります。とくにチンパンジーではパントフートと呼ばれる大音声が知られており、いっせいにオスたちが声をそろえると迫力満点の大合唱となります。人間はおそらくこの能力を伸ばし、緻密なハーモニーをもつ豊かな表現として完成させたのでしょう。実に根源的で人間的な、そして男性性の際立つ芸術だと思っております。

京都大学グリークラブは 1966 年に男子学生約 30 名によって設立され、毎年京都会館大ホールにて定期演奏会を重ねてきました。1990 年からはハーバード大学のグリークラブとジョイントコンサートを開始、東京大学とも毎年ジョイントコンサートを開催してきたと聞き及んでおります。海外の演奏会や介護施設、高校等での演奏会も数多くあります。現役学生ばかりでなく OB の方々の活躍も目立ちます。それは、純粋に音楽の楽しみを追求するという創設当時の志がしっかりと守られてきたからでしょう。この 50 年間のご努力に敬意を表したいと思えます。

ぜひこの 50 周年の記念となる演奏会を成功させ、次の 50 年の大きなステップにさせていただくことを願っております。男声合唱は人間の生き物としての力強さを高らかに歌い上げ、700 万年の進化の中で育まれた男性のハーモニーを美しく描きます。それは、ときとして内にこもりがちな現代の社会に、明るい生命の息吹を吹き込んでくれると期待しています。ゴリラ研究者の私としては、胸をたたいて歓迎したいところです。50 年の成果を十二分に発揮され、すばらしい演奏会になることを楽しみにしております。

PROGRAM

京都大学学歌

作曲 下総皖一
作詩 水梨彌久

学歌
九重に花ぞ匂へる
千年の京にありて
その土を 朝踏みしめ
その空を 夕仰げば
青空は 極みはるかに
われらの まなことをむかへ
照る日は 光をさし
我らの ことばに映る

STAGE 1 指揮：薙井 武

Missa Regina Coeli

Jacobus de Kerle(1531/32~1591)

Kyrie

Gloria

Sanctus

Benedictus

Agnus Dei

STAGE 2 指揮：藤巻 恵

祈りの風景

Ave Maria

Tomas Luis de Victoria(c1548~1611)

De Profundis

Leevi Madetoja(1887~1947)

Joshua

Traditional Spritual Arr. Robert Sells

Ubi Caritas

Ola Gjeilo(b.1978)

Cry Out and Shout

Kunt Nystedt(1915~2014)

STAGE 3 客演指揮：本山 秀毅

無伴奏男声合唱組曲「いつからか野に立つて」

作曲 木下牧子

作詩 高見 順

虹
彼
葡萄に種子があるやうに
光
天
いつからか野に立つて

Intermission

STAGE 4 指揮：横井 亮

現役団員愛唱歌より 欧米合唱曲集

Finlandia-hymni

Loch Lomond

Bushes and Briars

Du, du liegst mir im Herzen

Stäntchen

Vive L'Amour

STAGE 5 指揮：藤田 正浩

男声合唱組曲「燈台の光を見つつ」

作曲 多田武彦

作詩 伊東静雄

早春
燕
朝顔
蜻蛉
夕の海
燈台の光を見つつ

STAGE 1



R Egína caéli * laetáre, alle-lú-ia : Qui-a quem me-
ru- ísti portáre, alle-lú-ia : Resurréxit, sic-ut dixit, alle-
lú-ia : Ora pro nó-bis Dé- um, alle-lú- ia.

Missa Regina Coeli

作曲者のヤコブス・デ・ケルレ (1531/32-1591) は、フランドル地方のイーペル (今のベルギー西部) 生まれ。同地の教会音楽監督を振り出しに、ドイツ、フランス、イタリア、オーストリアなどヨーロッパ各地に赴きました。その音楽活動は、作曲はもとより大聖堂の楽長、オルガン奏者、歌手、カリヨン奏者と多彩を極めています。1583年からはプラハで職を得て暮らしていましたが、ここが終焉の地となりました。作品としては、モテット、詩篇、讚美歌など数多くの宗教曲と、少ないながらマドリガルなどの世俗曲が残されています。

本日演奏する「ミサ=レジナ・チェリ」は、ヴェネチアで1562年に印刷された出版物として発見されています。この曲は“Regina Coeli” (天の女王) の歌詞で始まるグレゴリオ聖歌 (上図) のモチーフを用いて、その旋律をパート毎に少しずつタイミングをずらしながら、先行するパートを模倣して歌わせる手法により作られています。このような手法で作られた音楽は、ポリフォニー (poly=多数、phony=楽音) と呼ばれており、中世ルネサンス期ごろに宗教曲・世俗曲として多く作曲され、当時の先端の流行音楽でありました。素朴なメロディのモチーフを、各パートが互いに聞きあい、次々に折り重なって歌っていきながら、とても美しいハーモニーを構成していく点に、ポリフォニー音楽の大きな特徴と魅力があると言えるでしょう。

京都大学グリークラブは、創設以来50年間このようなポリフォニーの合唱曲を、レパートリーの大きな柱の1つとして歌い継いできました。本曲は、1982年の第16回定期演奏会でも演奏しました。

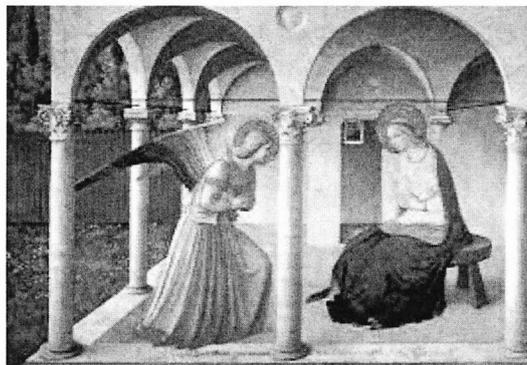
なお本日は、時間の関係で、クレド (Credo) など一部を割愛して演奏いたします。
(蕙井)



指揮 蕙井 武 (むしろい たけし)

京都大学グリークラブ19期OB。現役時はバリトンのパートリーダー。薬学部薬学科を卒業後、日本新薬㈱に勤務。現在、京大グリーOB会関西指揮者、日本新薬&HORIBAブラボー!合唱団指揮者、混声合唱団あんさんぶるともだち所属。

STAGE 2



祈りの風景

京大グリークラブはこれまで古今東西のさまざまな曲を演奏しています。筆者が経験した 20 期代前半の定期演奏会は概ね、①多田武彦に代表される無伴奏の日本語曲、②中世ルネッサンス期のポリフォニー、③さまざまな外国語の曲、④木下牧子に代表されるピアノ伴奏の日本語曲、という 4 ステージで構成されていました。本日のステージを見てもお分かりいただけと思いますが、これらのうち①～③がOB会の活動においても中心となっています。

「祈りの風景」と題した本ステージは、前述の③を想起しながら選曲しました。諸般の事情で古今東西の「東」を入れられませんでした。キリスト教の聖書や祈祷をテキストとした 16 世紀から 21 世紀にわたる曲を集めました。歌詩がラテン語や英語のため意味が伝わりにくいかもしれませんが、いずれの曲でも神への感謝、願い、誓い等が歌われています。

よく日本人は宗教に寛容であると言われる。それは「八百万の神」を持ち出すまでもなく、日々の生活におけるさまざまな事柄に人智を越えた存在を見出し、その存在に対する感謝や願いのために祈りをささげることが当然のこととして受け入れられているからではないでしょうか。日常のありふれた風景に「祈り」が根付いているからこそ、祈りと音楽が結びついた雅楽やゴスペル等に対して、私たちの心は強く惹きつけられるのでしょう。

今年は阪神淡路大震災から 20 年という節目の年にあたります。本日の出演メンバーやご来場のお客様の中にも、震災やさまざまな自然災害により被災された方がいらっしゃると思います。どれだけ時間が経過しても被災の痛みが消えて無くなることはありませんが、我々がお届けする祈りが少しでも皆様の心に届けば幸いです。(藤巻)



指揮 藤巻 恵 (ふじまき けい)

25 期学生指揮者、ベースパートリーダー。平成 5 年に工学部衛生工学科を卒業し、近畿日本鉄道(株)に入社。社会人となってからも合唱を続け、数多くの合唱団やアンサンブルにおいて指導・指揮や独唱を務めるほか、演奏会の制作にも携わっている。三重県四日市市に単身赴任中。

STAGE 3

無伴奏男声合唱組曲「いつからか野に立つて」

50周年を迎える京都大学グリークラブの歴史において、本山先生には第23回定期演奏会から途切れることなく客演指揮をお願いしています。夏合宿（当時は長野県飯山市の旧「清水山荘」）にて文字通り寝食をともにしながらご指導いただいたこともありました。この四半世紀に及ぶご指導に感謝の意を込めて、現役時、先生の指揮で歌った経験を持つ23期以降の「若手」OBが中心となり、本ステージを企画しました。

『いつからか野に立つて』は、高見順（1907-1965）が戦中から戦後にかけて書き溜めていた6つの詩（「虹」「彼」「葡萄に種があるように」「光」「天」「いつからか野に立つて」）に、木下牧子（1956-）が曲をつけた男声合唱組曲です。若々しさと円熟味が同居する高見順の詩にふさわしい「動」と「静」が複雑に交錯する構成の中で、木下牧子らしい「爽やかな和音」と「苦々しさを帯びた和音」の絡み合いが展開していきます。

練習が始まるまでは、久し振りに本山先生の指揮で歌えることに興奮を隠せないOBが続出。しかし、いざ練習が始まると思うように歌えず自らの「衰え」に直面することになりました。それでも懸命に先生の指揮に食らいつきながら練習を重ね、本日に至りました。これはまさに我々が現役の頃、定期演奏会に向けてがむしゃらに練習をした在りし日の姿を髣髴とさせるものでした。

この曲集は大学合唱団など若い世代によって演奏されることが多く、今回のように幅広い世代が集って歌われる機会はそう多くはありません。であるからこそ、高見順が生きたような変化の激しい時代に再び直面しつつあるこの世界で、1つのクラブを通してつながったメンバーが変わらずに歌い続けていくことの意味を感じ考えながら、演奏に臨みたいと思います。

70歳代から20歳代というジェネレーションギャップを超えて美しい「虹」が架かることを、そしてその「虹」が50年後、100年後も消えることなく天を飾ることを祈念して。（伊藤・上田・清水・仙石・芳村）



客演指揮 本山 秀毅（もとやま ひでき）

京都市立芸術大学音楽学部、フランクフルト音楽大学合唱指揮科卒業。帰国後はバッハを主とする教会音楽を中心に演奏活動が続ける。「バッハアカデミー関西」を設立し、バッハの声楽作品全曲演奏に取り組んでいる。第15回藤堂音楽褒賞、2001年京都市芸術新人賞受賞。現在、大阪音楽大学教授。びわ湖ホール声楽アンサンブル、大阪センチュリー合唱団指揮者。京都バッハ合唱団主宰。

INTERMISSION

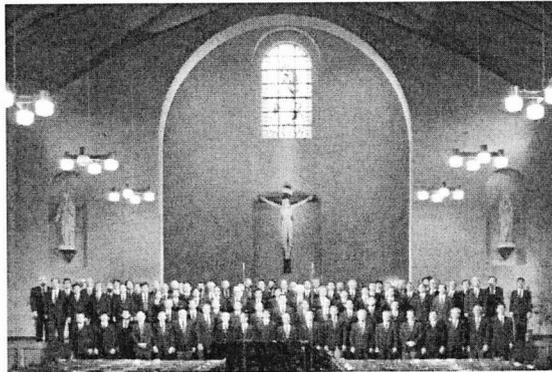
一枚の紙書き

70年安保前夜、キャンパスが騒々しい空気に包まれていたころ、ハーバード・グリークラブが世界一周演奏旅行の道すがら日本に立ち寄りました。京大グリー創設メンバーたちはこれを聴いて深い感銘を受け、できたばかりのクラブの進むべき道を見出していました。

そのころ部室には「グリーに入ってアメリカへ行こう」という紙書きがありました。当時は海外へ行くなど、夢のような話。資金や受け皿など、何の裏付けもないスローガンでしたが、いつか夢も実現するかもしれない、団員たちは漠然とそう思っていました。その「アメリカ」とはすなわち「ハーバード」に他ならず、その憧憬はその後脈々と後輩たちに受け継がれていきました。

創設から四半世紀が過ぎようとするころ、ハーバード留学中のOBの尽力により、1990年春、初めてのジョイントコンサートが大阪、東京で開催されました。そして92年にはハーバード側の招きにより、第2回コンサートを行うべく、京大OBがボストン、ケンブリッジを訪問する運びとなり、かつて部室に掲げられていた途方もないスローガンはついに成就したのです。

交流はその後日米で続けられ、来春10回目を迎えます。京大グリー50年の歴史はハーバード・グリークラブを抜きにして語ることはできません。彼らとの交流で得たものは、150年の歴史に裏付けられたクラブと同じ音楽的価値観を共有する喜びでした。これが京大グリーの血肉となり、OB会活動の原動力になっているのは紛れありません。すべてはあの一枚の紙書きがはじまりでした。



2009年9月長崎浦上天主堂
第7回ジョイントコンサート

✉ ハーバード・グリークラブからメッセージ

1958年、ハーバード・グリークラブ（HGC）は百周年を祝いました。それから3年後にHGC初のアジア演奏旅行で京都を訪れています。それから再び1967年に来日した折、創設間もない京大グリークラブ（KGC）のメンバーたちが私たちの演奏に触れ、HGCのレパートリーやサウンドを手本としようと決めたのでした。

それを聞いたのは1990年、京大グリー25周年記念事業として日本に招かれたとき。その時初めて私たちが残した影響の大きさを知ることになりました。それ以来、両校OBは互いに訪問し合いながらコンサートを開き、家族ぐるみでそれをエンジョイしています。四半世紀にわたって私たちは音楽人として、そして社会人として大切な絆を紡いできました。いまや歌を通じて結ばれたファミリーと言ってもいいでしょう。

KGC50周年おめでとう。これからも素晴らしい音楽を一緒にできるのを楽しみにしています。

バーナード・E・クリーガー
ハーバード・グリークラブ財団書記

STAGE 4

現役団員愛唱歌より 欧米合唱曲集

このステージでは、欧州各地及び米国の男声合唱曲から、広く親しまれているものを選び演奏する。

■ Finlandia-hymni(フィンランディア賛歌)は、今年で生誕 150 周年を迎える Sibelius の、最も代表的な作品である。静かに始まり壮大な広がりを見せていく様は、まさにフィンランドの大地の雄大さを物語っている。

■ Loch Lomond(ローモンド湖)は、スコットランドでの戦争において捕虜となった兵士の郷愁と悲哀を歌ったものとされる。悲壮な状況にありながらどこまでも穏やかな旋律は、安らかな眠りに誘われるようである。

■ Bushes and Briars (茂みと茨)は、主人と使用人の叶わぬ愛を歌ったイギリス民謡である。やるせ無さを歌う中、最後の最後の一筋の希望を見いだそうとするのは、やはり愛ゆえであろうか。

■ Du, du liegst mir im Herzen (君、恋し君)も愛を歌ったドイツ民謡であるが、前曲とは打って変わって陽気。切なさに苦しみながらも、前向きに、そして真摯に相手に想いを寄せる姿は、愛する喜びに満ちている。

■ Stäntchen(小夜曲)は、『リーダーシャツ』(ドイツ版男声合唱曲集)にあり、古くから多くの団に歌い継がれてきた。男女の別離の哀愁が、相手のことが夜毎に思い出される切なさが、人の心を震わせる名曲である。

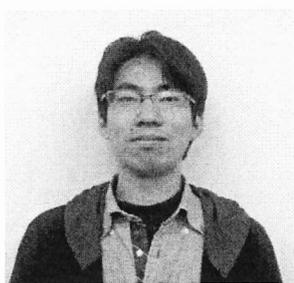
■ 最後には Vive L'Amour (愛に乾杯)をお届けする。高らかなバリトンのソロに始まり、コーラスが友情をもって応える。仲間と共に歌う歓喜がほとぼしり、アメリカらしさに溢れた曲である。(尾関)

◆現役団員からごあいさつ◆

ご来場の皆様、本日は京都大学グリークラブ創設 50 周年記念演奏会に足をお運びくださり、誠にありがとうございます。

現役一同としましては、大学生であるうちに団創設 50 周年という節目を迎え、更には記念演奏会にも出演できるというのは、誠に幸せなことであると思います。振り返れば、我々が当初この京都大学グリークラブに入団した動機は人によって実に多様でした。元から男声合唱好きの者、混声合唱から移ってきた者、団特有の雰囲気魅かれたもの、など。そんな我々は合唱を通じて一つとなり、『今』があります。しかし今回の記念演奏会を通じ、我々の今居る場所たるグリークラブの、連綿と続く『歴史』『伝統』というものとも改めて真摯に向き合うことになりました。今、我々は半世紀にわたる歴史と伝統の重みを受け止め、諸先輩方に恥じない演奏活動をしていく決意を新たにするとともに、次の半世紀をも視野に入れた長期的な活動の必要性も感じております。

我々は目下新入生歓迎活動の只中にあります。大勢の新たな仲間を得た上で、新たな時間を刻み、12月の定期演奏会がより良いものになるよう、努力していく所存です。今後とも京都大学グリークラブをよろしく願い申し上げます。



指揮 横井 亮 (よこい りょう)

兵庫県甲陽学院高校出身。合唱は大学入学後に始めた。とはいえ音楽への情熱は人一倍で、入団時より成長を続け、遂に正指揮者となった。「自分達ならではの音楽を自分がリードして創り出していく」という信念のもとで、日々試行錯誤しながらも団員達とともに合唱を楽しんでいる。本日は現役ステージにて指揮。

STAGE 5



伊東静雄が飽かずに眺めた旧堺灯台夜景

男声合唱組曲

「燈台の光を見つつ」

本日の最終ステージは、京都大学国文科（現文学部）1929年卒業の伊藤静雄作詩、京都大学法学部1953年卒業の多田武彦作曲による五十周年記念委嘱作品を、京都大学の後輩である私たちグリークラブOBと現役が合同で演奏します。

伊東静雄は長崎生まれ、京都大学卒業後、大阪の住吉中学で国語教師を勤めながら詩を創作、第一詩集「わが人に与ふる哀歌」の出版記念会には萩原朔太郎、三好達治、津村信夫等の著名な詩人が参加して高い評価を得るなど、抒情詩人として活躍しました。

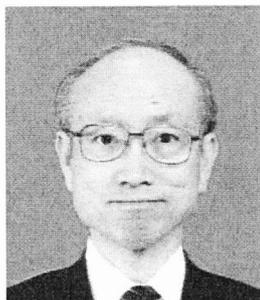
多田武彦は大阪生まれ、京都大学時代に清水脩に作曲を師事、卒業後は金融機関に勤めながら作曲活動を続け、100を超える男声合唱組曲を作曲、活動は今も衰えを知りません。

京都大学グリークラブは、創立時から多田先生にご指導いただき、男声合唱組曲「父のいる庭」改訂版初演、男声合唱組曲「みどりの水母」初演、OBと現役合同で男声合唱組曲「みどりの水母」増補改訂版初演するなどを行ってきました。

本日演奏する組曲は、第二詩集「詩集夏花」から6編の詩を選んで日本の伝統的な四季、花鳥風月を基調とした抒情の世界を構成した作品です。また、終曲「燈台の光を見つつ」は、現代の寮歌でしょうか、いつまでも青春の心を持って、自らの目指すべき道を求め彷徨うグリーメンの心、京都大学グリークラブの「逍遙の歌」をお聴きください。（藤田）

あゝ 嘆きや ねがひや 何といふやさしさ
なにもないのに
おれの夜を
ひと夜

燈台の緑のひかりが彷徨ふ
～「燈台の光を見つつ」より～



指揮 藤田 正浩（ふじた まさひろ）

香川県丸亀市出身、1975年理学部卒、グリークラブ第8期指揮者。OB会活動ではハーバードグリーOBとのジョイントコンサート等で指揮。多田武彦作曲「みどりの水母 増補改訂版」、藤原義久作曲 京わらべ唄による組歌「遊びをせんとや」等を初演。OB会活動を通して、多田先生の指導を受ける。奇しくも今年は合唱活動を始めて50年の節目の年となる。

SINGERS

■京都大学グリークラブOB会

西田 主計 '68	毛涯 久 '74	小嶋 純 '81	中野 元雄 '01
中 博 '69	藤田 正浩 '75	大岡 真行 '82	松本 典久 '03
森田 正紀 '69	上中 建夫 '75	谷 信幸 '82	上田 亮介 '04
田中 利男 '70	河野 浩 '75	井上 一郎 '82	清水 芳樹 '04
辻本 直彦 '70	平井 充則 '75	津久井 信夫 '82	芳村 真彦 '04
大木 和夫 '71	三木 善朗 '76	国府 寛司 '82	伊藤 清 '04
横井 省吾 '71	海道 静香 '76	竹田 昌弘 '83	松原 一平 '05
長尾 源承 '71	志水 雅一 '77	平井 恭 '83	堀江 俊也 '06
濱中 英二 '71	長谷川 正雄 '77	棟重 卓三 '83	杉崎 和 '06
西門 岩全 '71	松崎 裕輔 '77	森 一孝 '84	片山 雅博 '07
入江 隆彦 '71	山本 敏雄 '77	田中 慎一郎 '85	伊藤 晃生 '07
小林 謙一 '71	早雲 孝信 '77	川上 孝明 '85	打田 賢司 '08
山崎 治平 '71	金山 裕信 '77	田中 誠二 '86	上杉 昌也 '08
高阪 章 '72	新貝 康司 '78	薙井 武 '86	草深 陽太 '09
大橋 恒雄 '72	山崎 徳和 '78	梅田 正太 '86	吉田 和馬 '09
大川原 正明 '72	高野 誠 '78	小木 曾 哲 '90	並河 遼 '09
藤野 恵 '72	西川 文章 '78	吉崎 仁智 '92	岩井 裕正 '10
北川 邦晴 '72	櫛田 理 '79	藤卷 恵 '92	西脇 祥貴 '11
加門 洋一 '72	花田 俊一郎 '79	渡辺 裕 '93	吉田 琢紘 '12
明仁 憲一 '72	小田 垣正則 '79	三宅 康之 '93	今田 龍介 '12
林 康秀 '73	林 和之 '79	有徳 泰幸 '93	井上 拓也 '13
鈴木 照男 '73	遠藤 実 '80	加賀 成治 '93	藤 貫 裕 '15
松川 泰廣 '73	渡邊 真康 '80	水谷 真 '95	
池田 廣平 '73	横山 充 '80	藤原 大輔 '97	
西川 誠一 '74	中川 泰仁 '80	丹羽 真 '97	

■京都大学グリークラブ

今井 翔太 農 3	岡崎 健人 理 4
岩原 卓哉 理 3	青木 亮 理 3
小林 快斗 工 2	続木 俊哉 理 3
脇 和久 農 2	中野 広 理 3
尾関 峻 工 4	櫻井 智 文 2
丹羽 健太 薬 4	横井 亮 理 4
周戸 啓人 文 3	中尾 真介 工 3
春木 涉 文 3	青木 勇太 工 2
安本 健人 理 3	加藤 勢 工 2
櫛部 航 工 2	植田 悟史 法 3
松島 勇名 農 2	山本 竜二 理 2